

2016.3.19

今注目されている期待の演奏家達

プログラム

近年優れた演奏家が次々と登場し、我々を楽しませてくれています。今日は現在精力的に活躍している注目の演奏家を集めてお聴きいただくことにしました。

シューマンのピアノ五重奏曲のメンバーは、元東京カルテットのヴィオラ奏者だった名手磯村和英以外はすべて注目の若手で構成されています。小菅 優は1983年生まれ。9歳からリサイタルを開き、演奏活動を積み上げて国際的評価を勝ち得た実力派で、優れた技巧と豊かな音楽性でリサイタル、室内楽、協奏曲にと大活躍しています。同じ1983年生まれの庄司紗矢香は1999年、パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールにおいて史上最年少で優勝して以来ここで取り上げるまでもなく、既に我が国を代表するヴァイオリニストのひとりとして活躍。常に集中力を切らさない魂のこもった演奏で魅了し続けています。1984年生まれの佐藤俊介は名教師ドロシー・ティレイの門下生で、モダン楽器と古楽器を弾き分ける俊英。1979年生まれの石坂団十郎は日独ハープのチェリストで、数々のコンクールで受賞歴を持ち、今後の活躍が増々期待されています。アンドレアス・オッテンザマーは1989年生まれ。22歳でベルリン・フィルの首席奏者に就任。父エルンスト、兄ダニエルは共にウィーン・フィルの首席奏者を務めるという、クラリネットの超名門音楽一家で、美しい音色と豊かな表現力を持った若き逸材です。川瀬賢太郎は1984年生まれで2014年より神奈川フィルの常任指揮者に就任。常にエネルギッシュで、気迫溢れる意欲的な指揮ぶりですが、リズム感の良さ、バランス感覚の良さは抜群で、作品に生命力を与える術を心得ているよう。今後大注目の指揮者です。近年急速に評価を高めているヴァイオリニスト、イザベル・ファウストは1972年ドイツ生まれ。庄司紗矢香と同じパガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール、1993年の優勝者で、多彩な音色を持ち、研ぎ澄まされた美しさと緊張感溢れる演奏は年々磨きがかかってきています。山田和樹は1979年生まれ。2009年のブザンソン国際指揮者コンクール優勝後、日本フィル正指揮者、スイス・ロマンダ管弦楽団首席客演指揮者、2016年からはモンテカルロ・フィル音楽監督就任が決定するなど破竹の勢いで活動の場を拓けています。緻密な構築力とスケール感を持ち合わせた豊かな才能に期待が高まります。(中川)

ロベルト・シューマン (1810~1856):

ピアノ五重奏曲変ホ長調 op.44 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第4楽章から、

小菅 優 (ピアノ) / 庄司紗矢香 (ヴァイオリン) / 佐藤俊介 (ヴァイオリン)

磯村和英 (ヴィオラ) / 石坂団十郎 (チェロ)

(2010.12.22 水戸芸術館コンサートホールでのLive)

ジャン・シベリウス (1865~1957):

5つの小品 op.75 ~ 第5曲“もみの木”

小菅 優 (ピアノ)

(2007.5.16 東京文化会館大ホールでのLive)

カール・ maria・フォン・ウエーバー (1786~1826):

クラリネット協奏曲第1番へ短調 op.73 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第3楽章

ピョートル・チャイコフスキー (1840~1893):

交響曲第2番八短調“小ロシア” op.17 ~ 第1楽章から、第4楽章

アンドレアス・オッテンザマー (クラリネット)

川瀬賢太郎指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団 (2015.2.20 横浜みなとみらいホールでのLive)

*** 休憩 ***

セルゲイ・プロコフィエフ (1891~1953):

ヴァイオリン協奏曲第1番二長調 op.19 ~ 第1楽章から、第2楽章、第3楽章

イザベル・ファウスト (ヴァイオリン)

ベルトラン・ド・ビリー指揮NHK交響楽団 (2012.2.11 NHKホールでのLive)

ヘクトル・ベルリオーズ (1803~1869):

幻想交響曲 op.14 ~ 第1楽章から、第2楽章、第4楽章、第5楽章

山田和樹指揮スイス・ロマンダ管弦楽団

(2014.7.8 サントリーホールでのLive)

ホームページアドレス <http://www.bekkoame.ne.jp/hippo/gewandhaus/>